

## 令和7年度第4回近畿中国森林管理局国有林材供給調整検討委員会の開催結果について（概要）

第4回近畿中国森林管理局国有林材供給調整検討委員会を開催し、供給調整の必要性等についてのご意見を頂きました。

### 1 日程及び場所

令和8年3月10日（火）

近畿中国森林管理局 4階 大会議室A（対面Web併用形式にて開催）

### 2 議題

- (1) 近畿中国局管内の木材需給動向について
- (2) 国有林材供給調整の必要性について
- (3) その他

### 3 議事概要

#### 《検討結果》

国産丸太の出材量は、一部地域では増えているが、全体としては伸びていない。

新設住宅着工戸数は、地域によって差はあるが、全体としては低調で推移している。

プレカット工場の稼働は、住宅着工の動きに結びついており、非住宅物件の受注や木材仕入れ価格上昇の転嫁が経営の課題となっている。

製材については、輸入材の入荷減、価格高騰などで国産材への代替需要が出ているが、実需が薄く構造材製品の荷動きは停滞している。

合板については、低調な需要のもとで生産調整を継続する中で、大手メーカーが値上げに動き始めた。

燃料用木材チップについては、バイオマス発電施設の定期修理、稼働率の低下で需給のひっ迫感は和らいでいるが、中国地方の一部では燃料の確保が厳しくなっている。

製紙用木材チップについては、需要が落ち着き、不足感は無くなっている。

輸入製材品については、為替が円安に振れて価格が高まり、需要が伸びずに荷動きは低調となっている。

以上、国産丸太の出材量は伸びておらず、製材、合板ともに製品の需要は低調である。木材チップには一部不足もみられるが、季節的な要因も落ち着くことから、総合的にみて直ちに国有林材による供給調整を行う局面にあるとは判断しない。

なお、国有林においては、地域における木材需要動向、民有林材の出材状況等について注視しつつ、素材生産事業の早期発注や立木公売の落札率向上に向けた取組み等により、国有林材からの素材並びに立木の安定供給・販売に努めることとし、引き続き、地域の実情に即した供給調整のあり方を検討していく。

## 〈主な情報、意見等について〉

### ○木材の需給動向について

- ・ 奈良県内の原木出材状況は、降雪の影響は一時的で施業に大きな影響は無く、出材量は徐々に増加傾向も大幅な増加無し。B・C材については、依然として、不足感が続いている。また役物原木も伐り旬良い寒伐り材として積極的な手当ては続いている。原木市場の取り扱い材積は、令和6年度の12月と令和7年度の12月と比較すると対前年比で7.7%の増となった。
- ・ 合板生産量は需要（住宅着工戸数）以上に減産しているのに、合板価格は杉製材品よりも安く、合板の居所感として不自然である。合板価格が52,500円/m<sup>3</sup>（1,050円/枚）スギ間柱63,000円/m<sup>3</sup>となり、全国の合板業者が、20%の減産を行っても、個別メーカーでは減産せず安値販売することから、シェア維持のため安値に追随している。
- ・ 国産丸太については、住宅着工戸数が悪いなか、ビルダーからのプレカット坪請け価格の値下げ合戦が止まらず、プレカット各社が少しでも安い材料を探しており、スギへの樹種転換が進んでいる。受注量から考えると、全国的に丸太は不足気味と感じている。また、輸出に取られているという話も聞く。・ 中国地方の国産丸太の出材量は、良材は少ないが入荷は順調である。また、スギ丸太の価格は上昇気味で、製品の価格は上がってない状況から考えると高い。収支については、出ず入らず。一方でヒノキの価格は、年末にかけて弱含みとなったが、1月になると雪の影響で一気に上昇、最近は下降と乱高下している。
- ・ 住宅関係について、秋から確認申請の遅れが追い付いてきて、分譲ビルダーの仕事を多く請負うプレカット工場中心に忙しい状況であったが、閑散期もあり少し落ち着いてきたように感じる。1月の住宅着工は、木造軸組工法において前年比114%とプラスとなったが前年度が悪かったことが大きな要因で、実需としては2月が忙しかったとか3月以降忙しくなるという話は聞こえてこない。
- ・ 輸入製材品については、インフレのなか、円安に加えイラン攻撃により原油価格が上昇しており、船運賃も上昇するため、製品価格が下がる要素はなく上昇傾向と考えている。
- ・ ラミナ入荷量は、2024年を若干上回っており、住宅着工戸数が悪いこともあり、不足の話は聞こえてこない。米松も原木価格が上昇傾向であり、製品価格の値上げとなった。この流れのなか、一層国産材シフトが見られ、九州や関東で製品価格の上昇が見られており、需要が増えれば、米松の製品価格に近付いていくものと考えている。
- ・ 和歌山県田辺市近隣の原木市場では、初市の入荷量は、通常市より多くスギが4割でヒノキが6割となった。しかし、初市以降は伐採事業以外の事業と降雪の影響で、入荷量が大幅に減少し予定していた通常市が行われなかった。
- ・ この2週間の間で、岡山県の原木市場のヒノキについては5,000円/m<sup>3</sup>程度下落した。国産材の原木は高いのかという話になるが、やはり原木が入荷されないとか加工は出来ない。製材から見れば、製品値段から加味すると、原木価格は高い状況である。現状として、国産材丸太のA材は非常に価格が下がっている。A材をどこまでA材と判断するかだが、手入れ材丸太の出材があった場合、平均単価は上昇す

る。しかし、15万/m<sup>3</sup>前後の原木は、神社仏閣の発注が無かったことにより価格は非常に下落している。その他のB・C・D材は燃料チップが下支えしているの下がらない。

- ・ 岡山県新見地域では、昨年からの生産量が落ちることなく、2つの原木市場に1回の市売で6,000m<sup>3</sup>を超える大量の出荷があった。ヒノキ原木価格が5,000円/m<sup>3</sup>の下落となったが、全国相場より高い値の岡山県の相場は推移をしている。
- ・ 合板については、鳥取県の合板工場では、原木在庫が品薄状態になるということで、大量消費する大型工場にとって原木の確保が国産材を扱ううえで大きな課題となっている。
- ・ 岡山県内のR7年度（4月～R8年2月）のスギ、ヒノキ丸太の総平均単価は15,800円/m<sup>3</sup>で、前年同月費で約2,000円/m<sup>3</sup>上昇している。例年は、梅雨の時期や秋需で価格の変動が大きいですが、年間を通じて安定な価格で推移している。岡山県森連の県内3カ所の原木市場のR7年度（4月～R8年2月）出荷量は、前年同月比で約27千m<sup>3</sup>増（13%増）の約24万m<sup>3</sup>となっている。特に、新見地域では旺盛な出材が続いている。
- ・ 島根県の原木供給は、11月～1月は前年同期比でほぼ同程度（微増）で、令和7年次（1月～12月）の累計では前年よりも若干の減少となった。増産を推進してきたが豆打ちというような状況になったように思っている。島根県の伐採業者は、現状の生産量を保ちながら、収益の高い販路先にシフトしており、市場、合板用材と仕分けて販路を決めていたが、より利益がある販路先に直送している流れもある。
- ・ 島根県内5カ所の原木市場の取扱量は、前年同期よりも1割増加しており、年間通じて昨年並みで増減はない。原木価格については、R8.1月のスギ4m中目は、13,800円（R7.1 -100円、R7.4 -400円）でほぼ横ばい。ヒノキ4m中目は19,900円（R7.1 +400円、R7.4 -800円）で20,000円前後となっている。
- ・ 和歌山県内の令和7年次の1月～12月の素材生産量は29万9千m<sup>3</sup>（対前年比99.7%）で1千m<sup>3</sup>減となった。【主伐：83%（スギ58%、ヒノキ40%、その他2%）】【間伐：17%（スギ60%、ヒノキ38%、その他2%）】また、新宮市内の林業事業体が三重県との県境で約4万m<sup>3</sup>の生産量を加味すると、34万m<sup>3</sup>となり、令和7年時の素材生産量の目標を上回る結果となった。用途別では、製材用材が10万9千m<sup>3</sup>（対前年比87%）、合板用材が4万3千m<sup>3</sup>（対前年比133%）、バイオマス燃料用材等が14万7千m<sup>3</sup>（対前年比103%）となった。製材所への直送分が減少、合板用材は増加、バイオマス燃料用材等は過去最多となり、全体の約50%を占める結果となった。
- ・ 和歌山県内の原木平均の価格は、令和8年1月～2月でスギ・ヒノキを合わせて、15,154円（対前年同期比102%）で樹種別では、スギは13,470円（対前年同期比100%）、ヒノキは17,747円（対前年同期比105%）となった。
- ・ 和歌山県内のプレカット工場の稼働状況は、米材、欧州材の入荷量は、世界情勢や円安によるコスト高の影響あり、減少傾向ではあるが、国内需要の低迷しており、品薄感はないが、価格については上昇傾向にある。また、輸入材のコスト高の影響により、国産材への転換を図る中・小の工務店が出てきている。プレカット工場の1月～3月の稼働率につきましては、約80%～90%と低調な状況となっている。

る。

- ・ 和歌山県内の梱包を取扱う製材工場は、今年度の受注量は、5年度、6年度とは違って、各社ともに堅調で安定しており、取引価格についても、原木価格の高騰、人件費の高騰分を製品価格に転嫁できた年であったと聞いている。令和8年度の受注状況は、現在のところ見通し等には不透明な状況である。
- ・ 和歌山県内の4社の木質バイオマス発電施設の稼働状況は、通常通りの稼働で1月～3月の稼働率は、例年の約70%～100となっている。集荷状況は、比較的旺盛で、稼働率が上昇傾向のバイオマス発電所もある。昨年8月に御坊市内で商業運転を開始していた和歌山御坊バイオマス発電所は、主な燃料は木質ペレット・PKSだが、御坊市内のチップ工場から僅かではあるが、未利用材を入荷したようだ。

#### ○今後の見通し

- ・ 原木需要は、住宅着工数の低調が続いている中、不安定な外材製品から国産材製品への転換が進み、スギ・ヒノキともに並材の引合いは保たれている。5月以降は例年とおり、虫害の被害が懸念されるので、梅雨時期にかけて出材量は減少していく見通しである。
- ・ 合板メーカーは3月から値上げを唱えているが、ロシアからの合板輸入が始まることや国内メーカーの中には、外国人労働者の雇用を拡大し、工場稼働日を年間300日目指すところがあるため不安要素がある。
- ・ 岡山県でも真庭・津山地域では出材が少なかったが、真庭木材市売(株)で、開設以来最高の7,200m3の出荷があり、今後は雪解けとともに全国的に供給量が増えてくる見込みで、原木高の製品安と言われている現状だが、変動が起こりうると感じている。また、今後の世界情勢によっては、国産材価格に大きな変化が起きる可能性もあると思われる。

#### ○その他

- ・ 川上については、技術者の減少や事業地の奥地化という問題は、何も解決しておらず、厳しい状況である。また、重機のコスト、資材の高騰及び運送費の上昇を含めた素材生産費の上昇は大きい。時節柄、森林環境税を原資とする森林整備事業等(除伐・伐捨)の発注も多く、一部の素材生産業者が人手を取られていることもあり、搬出間伐が少ない状況である。また密植された民有林が主体の地域では成長量・立木径級としても皆伐適齢期でなく、山林所有者の理解も含め皆伐再造林への移行は進まない。近年、間伐施業に対する補助金予算が減少されていることから、皆伐施業が適さない地域では素材生産量に影響を及ぼしている。
- ・ 補助金で買った重機が更新時期を迎えているが、買い替えの場合、増産等の要件を満たさないと補助金が出ないため困っているという話を聞いた。本来は、補助金を使用し事業基盤を整え、次の買い替えは自己資金で行う目的だが、集約化が進んでいないうえ、伐採地の奥地化、物流の24年問題や過積載取締り強化など条件が悪化しており、補助金無しで更新する余力がない伐採業者も多いと推察している。

- ・ 住宅の価格も高騰しており、受注は構造計算をする構造設計事務所とプレカット工場と別々であったが、構造計算も行うプレカット工場も出てきて、構造計算された図面をプレカット工場のCADオペレーターと確認し、不具合や、平面的では収まっているが、立体的に見ると相違があり、指摘しながら構造計算を行っていたが、データの往来と修正に時間がかかっていたのが少なくなり効率が良くなる。加工から構造計算まで一貫でやるプレカット工場が出始めているのが現状である。
- ・ 製材業の補助金については、以前は投資額の1/2程度の額の補助があったが、今後は、設備を投資した際の増加量等で額が決まっており投資額の1/6程度しか補助されないケースもある。
- ・ 国産材の単価は高いでしょうか。スギ4mを13,000円で市場に売った場合、売上げから搬出費用が8,000円程度、運送費が1,500円、市場手数料は1,500円かかるとする。そうなれば、仕入れは2,000円でやらなければならないのがスギの現状です。仕入れ2,000円を蓄積量ha当たり400m<sup>3</sup>に掛け算をすると80万円しか売上がない。再造林を行う経費を賄うことができないのではないのか。川上では、労働力、輸送力の低下、搬出場所が山の奥地になり、条件が悪くなっている。また、機械価格の価格変動も大きく、チップパー機が2016年から2026年の10年間で174%上昇している。
- ・ 木材チップについて、大型の製紙会社がある地域は、昔から利権の世界の中で、がんじがらめになっているので安定している。ところが、私たちの地域については、バイオマス発電所がある程度占めている、供給が間に合わず倒産している。和歌山県から岐阜県にかけて、倒産しているのはそういうことではないか。その結果、三重県と奈良県は、燃料チップの原材料の受け入れを停止している状況が若干見えており、資料にある安定しているとの記載はおかしいと思われる。ここ最近に連休があったが、チップ製造はフル稼働していた。取引先が1日に1,150t燃料が必要であり、供給できなければ、発電を停止するとのことで休まず供給を行った。稼働率100%を何日維持するかが経営の良し悪しを左右していく業界であるのに対して300日でどうやってバイオマス発電が、うまく機能していくのか。今後はさらに潰れていくのではないかとと思われる。
- ・ 木材チップについては、昨年、岡山県、鳥取県の大型バイオマス発電所が経営の継続が困難な状況に陥りました。これは、PKS等の輸入材を大量に消費する発電所は、為替の影響や、また水分率の低い燃料を使用することで、粉塵爆発等のリスクを抱えている。今後はGHG温室効果ガス排出量の報告が求められ、再生可能エネルギーのバイオマス発電がカーボンニュートラル本来の目的に立ち返る必要があると思われる。
- ・ 原木の供給側としては価格の転嫁ができないと、機械・燃料の高騰、賃金の上昇等に付いて行けず「林業」が産業から離脱してしまうことになるとと思われる。
- ・ 岡山県森連の勝山木材共販所では、広葉樹を中心とした特別市を2月に開催した。全体の取扱量の2割程度が広葉樹ということで、少し定着してきたのではと認識している。
- ・ 岡山県森連の津山木材共販所では、3月に補助事業を使って大径材に対応した選別機を導入したところ。岡山県の手製材工場では、来年6月の完成を目前に、64億円余りの投資額にてツーバイフォーに対応した製材機を導入するなど大型設備投資の予定がある。

- ・ 浜田港からの原木輸出が昨年から増大しており、今年度も昨年並みで推移している。(中国・韓国)  
また、日中関係の影響から、今後の中国需要については不透明感がある。
- ・ 和歌山県では令和8年度の建築物木造木質化支援事業については、民間非住宅の支援に舵を切って、1億3,800万円（対前年度比 約150%）の補助金を予算計上している。議決されれば4月から公募を開始予定としており今後は、民間非住宅建築物の木造木質化の伸びに期待をしている。対応をお願いしたい。

## 令和7年度

### 第4回 近畿中国森林管理局国有林材供給調整検討委員会

### 出席者名簿

#### 委員

| 氏名    | 所属等                     | 備考      |
|-------|-------------------------|---------|
| 立花 敏  | 京都大学 教授                 |         |
| 谷口 隆俊 | 和歌山県農林水産部 森林・林業局 林業振興課長 | (Web出席) |
| 山本 剛  | 島根県農林水産部林業課 木材振興室長      |         |
| 池田 稔  | 岡山県森林組合連合会 代表理事専務       |         |
| 戸川 睦徳 | 株式会社戸川木材 代表取締役          | (Web出席) |
| 八木 数也 | 株式会社八木木材 取締役            |         |
| 三栖 基史 | 株式会社山長商店 専務取締役          |         |
| 堀川 智子 | 中国木材株式会社 取締役会長          | (Web出席) |
| 内藤 和行 | 林ベニヤ産業株式会社 代表取締役社長      | ご欠席     |
| 難波 高明 | 江与味製材株式会社 代表取締役         | ご欠席     |
| 西垣 雅史 | 西垣林業株式会社 代表取締役          | (Web出席) |

#### 森林管理局

| 氏名     | 役職等     | 備考 |
|--------|---------|----|
| 川浪 亜紀子 | 次長      |    |
| 近藤 匡   | 森林整備部長  |    |
| 長屋 秀樹  | 資源活用課長  |    |
| 高木 敏   | 地域業務対策官 |    |
| 川畑 弘樹  | 供給計画係長  |    |